

1 事業総括

平成28年度は、年間77人の入所実績で、年間目標80人をほぼ達成した。退所時の目的達成率は、64.8%（47人）で、平成27年度比で15.4%増と大きく改善した。引き続き、目標達成率の向上に努めたい。

経営面においては、事務費算定基準の月初において定員を下回る月もあったが、概ね定員を超えた。平成28年度、月末在籍数の平均は50.9人であり、平成27年度比で、1.8人増えており、1年を通じて安定した運営ができた。引き続き、定員確保をしっかりと行い、更なる増収に努める。

利用者の傾向は、地元足立区内の精神科病棟退院後の入所が多く、精神疾患を抱える利用者の割合が常に半数を超えた。日中活動が定まらない利用者に対しては、近隣病院のデイケア等を積極的に活用しながら、地域復帰を促進した。また、増加傾向にある若年利用者には、専門的支援を推進できるように、ケース検討会等で外部有識者の意見を取り入れながら検討を重ねた。

利用者支援の中心である『本木荘トライワーク・プログラム』は3年目に入った。利用者や福祉事務所からの評判は良く、入所希望動機の一つとなった。施設周辺の公園を清掃するプログラムは、利用者ニーズが非常に高く、平成29年度に向けて清掃箇所を増やした。今後も利用者や福祉事務所とのニーズを見極めながら、プログラム内容を改善していく。

また、地域・関係機関との連携では、夏祭り・もちつき会をはじめ、保健栄養教室のほか、足立保健所・医療機関・作業所等が参加する『足立区こころの健康フェスティバル』へ参加した。近隣の包括支援センターや保育所等とも施設行事を通じて協力関係強化に努めた。

〔利用実績〕

(単位：人)

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所者数	77	9	4	8	6	6	4	7	6	10	5	5	7
退所者数	71	3	5	8	4	6	7	7	7	9	5	5	5
月末在籍数	平均 50.9	52	51	51	53	53	50	50	49	50	50	50	52
27年度	平均 49.1	51	49	50	50	49	49	49	49	48	51	48	46

〔退所理由〕

(単位：人)

	自 活	居 宅 移 管	入 院 除 籍	他 施 設 移 管	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	等 同 居	帰 郷 ・ 親 族	勾 留 除 籍	死 亡	促 進 社 会 復 帰	そ の 他	合 計
28年度	3	32	2	8	11	8	0	0	2	1	4	0	0	71
27年度	2	29	4	5	23	10	1	1	0	2	3	1	1	81

2 主要目標に対する成果

(1) トライワーク・プログラムを活用した中間的就労支援の実施

外部就労が難しい利用者には、トライワーク・プログラムを活用し、日中活動の充実を図った。

(2) 自立支援プログラムを活用した利用者本位の支援実施

利用者支援のベースとなる自立支援計画書は、利用者及び福祉事務所の意向を踏まえて策定した。必要に応じて支援計画は見直し、ケースカンファレンスを実施し、柔軟に利用者支援を展開した。

(3) 各種プログラムの実践を通して推進する利用者のコミュニケーション力向上

公園清掃では、施設名が入ったユニフォームを着用してプログラムに取り組んだ。作業中の地域住民との挨拶が習慣化され、利用者のコミュニケーション能力向上の一助となった。

(4) 利用者支援手引き及び特厚厚バックアップセンターの専門相談を活用した支援

利用者支援の手引きを活用し、施設として統一した支援を実施した。表出した課題は、専門相談を積極的に活用し、支援の質の向上と課題の解決を図った。

(5) 住民が参加できる行事を関係機関と連携して開かれた施設作りの推進

包括支援センター（年間48回行事参加）や保育所等との連携を図り、地域関係強化に努めた。もちつき会では、つくたての餅を地域住民に配布し、好評を得た。

3 運営管理

- ・様々な理由ですぐには外部就労に就くことが困難な利用者に対し、就労意欲の喚起を図り、就労の場を提供する目的で、トライワーク・プログラムによる中間的就労に繋げた(月平均22.5人参加)。
- ・トライワーク・プログラムにおいては、作業内容以外に、職員と利用者や利用者同士のコミュニケーションの促進も意識して実施した。所内作業では毎月、作業懇談会を実施した。
- ・手工芸作業は、作業スペースをオープンスペースから作業に集中ができる個室に移動した。販路を事業団他施設の地域行事にも拡大し、平成27年度比で1.38倍に売上額を伸ばした。
- ・就労支援強化のため、東京ジョブステーション等の求人情報の掲示コーナーを新設した。
- ・利用者ニーズ把握のため、毎月の全体・フロア懇談会の他、臨時懇談会や個別対応を適宜実施した。
- ・生活のしおりを大幅改定し、利用者の視点に立った記載を心がけた。苦情解決制度について、しおりをういて全ての利用者に対して説明をした。意見箱を事務所前から意見が出しやすい場所に移した。
- ・増加傾向にある精神障害を持つ利用者への支援の向上を図るため、心理相談を活用した。
- ・第三者評価の結果を踏まえ、各職員から業務改善の提案を積極的に募った。職員会議において優先順位をつけて、10件の業務改善に取り組んだ。(バイキング給食実施、手作業スペース移設等)。
- ・第三者評価で満足度に課題があった食事は、平成29年度の本格実施に向けて、試行で平成29年3月から給食選択食のメニュー変更を実施した。
- ・利用者の安心・安全確保のため、消防訓練等を適切に実施した(消防署員来所1回)。
- ・施設1階に保管していた防災備蓄品は、水害対策のため施設4階倉庫に移動した。
- ・職員会議・自立支援会議では、情報の共有化を図った。利用者の日々の変化は、業務宿直日誌を活用した。事故等発生時の情報の洩れを減らすために、別紙を用いて職員間での情報共有を徹底した。

4 保健衛生・環境整備

- ・入浴やシーツ交換により衛生維持に努めた。栄養士が月に1度の頻度で利用者の体重測定を実施し、適正な体重管理の指導を行った。必要に応じて、看護師等による個別の健康指導を行った。
- ・手洗い・うがいの励行、マスク着用、インフルエンザ予防接種、保健栄養教室などにより、感染症予防に努めた。インフルエンザ発症時には、個室居室の計画的な使用と、近隣病院の積極的な活用により、感染拡大の防止を徹底した。
- ・嘱託医による入所時検診及び看護師との面接による病状・健康状態の把握を適切に実施した。
- ・潤いのある生活環境保持のため、足立区内の就労継続支援B型施設と利用者と共に、ゴーヤやキュウリ等を植えた。夏場のグリーンカーテンの役割も果たした。

5 施設の社会化(地域交流事業及び施設機能強化推進事業)

- ・手工芸活動等にボランティア(年間延べ73人)を受け入れプログラムの充実を図った。
- ・社会福祉士の実習生を、4学校延べ9人受け入れた。
- ・地域包括支援センター関原、親隣館保育園などと、地域施設の行事等への相互参画を実施し、地域交流の促進を図った。
- ・アルコール問題連絡会、精神保健福祉情報ネットワーク、おりづる杯、足立区こころの健康フェスティバルへ参加し、足立区内の地域社会資源等との連携強化を図った。

6 福祉サービス第三者評価 評価結果

評価機関：特定非営利活動法人 NPO サービス評価機構 実施期間：H28.8.18～H28.11.18

全体の講評：

特に良いと思う点

- ①トライワーク・プログラムの拡充により日中活動を活発化し、就労へつながるよう取り組んでいる
- ②施設と地域社会との交流を深め、利用者の生活の幅を広げている
- ③利用者の声をきめ細やかに施設運営に生かす仕組みが機能している

さらなる改善が望まれる点

- ①食事の満足度向上にむけてのより一層の取り組みを期待する
- ②利用者の不本意な退所に至った原因と対応の検討を期待する
- ③職員間連携を深めるために、記録類の改善について検討を期待する

施設コメント：

さらなる改善が望まれる点
①の食事満足度は、バイキング食や誕生日会食の実施により、更に向上させていきたい。②の退所理由については、平成28年度は目的達成率が上昇しており、今後も引き続き、効果的な支援を実践していく。

